

第10期 第1回小平市農のあるまちづくり推進会議要録

1 開催日時 令和6年4月24日（水）午後3時00分～午後5時00分

2 場 所 小平市役所 3階 301会議室

3 出席者 委員：出席10名、欠席2名
事務局：出席4名

4 内 容

(1) 副市長あいさつ

(2) 委員の紹介

各委員より自己紹介

(3) 会長・副会長の選出

→会長：相原委員（東京都農業会議）

副会長：竹内委員（小平市農業委員会）

(4) 小平市の農業について

→事務局より、資料を元に説明

(5) これまでの活動実績と今後の計画について

→事務局より、資料を元に説明

今期の活動の方向性について事務局より提案。

農業への関心層を、農業の支え手へ誘導する取り組みの検討

⇒提案を元に協議

以下、協議内容

【今後の計画について】

事務局から、本会議では、都市農業の課題を含めて議論し、市民の都市農業への理解促進の取り組みとして、農業への関心層を農業の支え手へ誘導する取り組みを検討していく旨を説明した。事務局の提案に関する意見のほか、新しい提案を募った。

【都市農業に関心を持ってもらうことに関する意見】

- ・ 有機栽培や無農薬野菜への関心が高まっているが、都市農業で取り入れることは難しく、都市農業のことを知ってもらう体験や取り組みができればいいと思う。
- ・ 小平市では、地産地消推進の取り組みに力を入れているが、より生産者の顔や物語が見えるような販売の仕組みづくりの企画・立案等のお手伝いをしていきたい。
- ・ 農家の中には、近年の生産資材費の高騰分を農産物へ価格転嫁できない現状から農業を続けていけない人もいる。また、農業においては、価格転嫁の問題、ラインナップ、天候、肥料のバランスなどの不安定要素があるため、農業を残していくためには、消費者が農業を理解し、応援してくれる環境を整備していく必要があると思う。

- ・ 直売所へ来る消費者の中には、農作物に消毒をしているという話を聞いただけで購入に至らないケースもあるが、消毒はしているが農作物は安全であることを伝えたい。
- ・ 今は使用しても良い農薬もあることを伝え、都市農業の地産地消を図っていきたい。
- ・ 安全な農産物はどのようにできているのかを体験できるイベントや、農家の本音や現状が市民に伝わる動画の作成が良いと思う。
- ・ 令和5年度の活動の中では、実際に直売所やスーパー等で農産物を購入する機会が多いと思われる40～50代の農業への理解が進むことが農業を守ることに繋がるのではという意見があり、ターゲットを絞って広報することは効果的であると思う。

5 次回開催（第2回）

令和6年7月8日（月） 午後3時から 601会議室